

特別講演

体幹部の救急疾患の画像所見：STAT 画像報告の重要性

北海道大学病院 放射線診断科 木村理奈

体幹部の救急疾患において、治療の緊急性が高い疾患は多岐にわたる。日中の検査では、放射線科医が主治医に異常所見を伝えることで早期治療に結びつく場合があるが、多忙な状況ではレポート作成が遅れることがある。また、夜間や休日には、当直医が専門外の疾患を見なくてはならず、放射線科医の読影が翌日以降になることも少なくない。このような状況下で、最初に CT 画像を確認するのは放射線技師であり、緊急性の高い所見を迅速に医師に報告することで、早期診断・早期治療が可能となり、患者の救命に繋がることもある。本発表では、緊張性気胸、肺動脈血栓、消化管穿孔、腸閉塞、腹腔内出血、大動脈解離、大動脈瘤などの体幹部の救急疾患における CT の典型的な画像所見を解説し、早期発見のポイントや報告の優先順位について言及する。






日本放射線技術学会北海道支部学術大会

新企画

シークレットセッション

- 日時 11月23日(土) (支部大会初日、時間未定)
- 場所 会場1F 理事控室横 (予定)

コンセプト

-  学会員のコミュニケーションの活性化
-  情報共有の促進・円滑化
-  コンテンツの増加

上記を主たる目的に北海道支部会を皆で盛り上げたいと思います！

そのため、[現地開催のみ](#)です。是非お越しく下さい！

話題提供となる簡単なスライドをもとに、[気軽なおしゃべりをするためのセッション](#)です。

今回はMR専門委員が担当しますが、今後はどなたでも発表していただけるようにしていきたい
と思います。話題は、研究、日常業務や臨床技術、症例カンファレンス、画像解析や撮影方法の
コンサルなど、なんでもOKです。

出入り自由！参加者の発言も自由！飛び入り話題提供も歓迎！

内容(予定)

「国際学会 (ISMRM) 参加のリアル」

-  お金・時間・家庭・英語
-  考えよう、MRIが壊す地球環境

担当 MR専門委員会
MR専門委員長 長濱宏史(札幌医科大学)